

「日頃の教育に対する工夫，及び今後の教育への抱負」

電気電子情報工学科
電子物性工学コース/電気通信システム工学コース
重信颯人

着任2年目でもう新任とは言っていないが、教育経験が短い中で優秀教員に選出されたのは非常に喜ばしい。選ばれた理由はおそらく、すべての講義がオンライン授業となりその中で、多少なりともオンラインに移行できたのが要因だと思っている。もともと自身の講義スタイルに固まった形式があるわけではないので、オンライン移行することはそこまで抵抗はなかった。もちろん楽に講義動画を作成できたわけではないし、講義を進める中で、最初と最後では講義動画の形式も質も異なり模索の日々である。

実際に講義動画を作成してみるとわかるが、機材の不具合や取り直しなど、対面授業ではない時間ロスが数えきれないほどあった。参考までに、1コマの講義動画を作成するまでにかかった時間を図1に示す。通常の講義準備時間の2~3倍では済まないほど時間を費やし、Youtuberの苦勞を知ることとなった。

講義動画は板書(数式の導出過程等)や、スライド、PDF資料への書き込みが主であり、対面授業と比べて特別なことをしたわけではない。唯一挙げるとすれば、ノートアプリである「コンセプト」を使った板書はデジタルならではの利点があり非常に役立った。また、動画の作成・編集はすべてiPadとLuma Fusionを使用し、シンプルな動画編集とした。それでも講義動画の作成は、調子がいい時でも1日に3コマが限度であった。

講義工夫といえば、電気新聞より今週のトレンドを講義のはじめに紹介し、講義内容につながる内容を積極的に学生に提供(+対話)することを行った。私自身、インプットとアウトプットを同時にでき時間を有効活用できた。このように対面授業では学生の反応を見ながら講義を進めていたが、今年度のオンデマンドでの講義は、学生の反応がまったく見れず、講義をしたというより作業になってしまったことは反省すべき点である。一方で、レスポンスのないカメラに向かってひたすらしゃべるだけの準備風景は、さながら、映画でよく見る世界の終わりにウイルスと戦う孤独な研究者の気分を味わえるが、もう十分である。

教育への抱負

講義をする上で、わかりやすい講義は目指すところの一つであるが、学生には考える力と時間を大事にしてほしいと願っている。自身の経験においても、学問や知識について納得するのは、実際に行動したときであり、教員がわかりやすく説明しすぎることは、学生の考える力を阻害するとも思っている。この思考に対する説明のバランスは、やはり対面で授業して対話や質問しながら講義することで得られるので、ある程度対面での講義は必要だと考えている。

学生には「なぜ？」の疑問を触発して、「どのように」までへのアプローチを学生と一緒に思考する時間を確保し、学生の自由な発想を活かした講義にしたいと考えている。

最後に、電気電子の先生方には実際に講義の一部を拝見させて頂いたり、講義の仕方への助言など日ごろから手厚いご支援を賜っており、この場をお借りしてお礼申し上げます。



図1. 講義作成時間